

とっとり・グローバルウォッチ

第78号

2013年5月9日発行

現地発！台湾月刊レポート 71
アベノミクスによる台湾への影響

目次:

| | |
|--------------------------|-----|
| 現地発！ 台湾月刊レポート 71 | 1~2 |
| 最新の上海 ～現地レポート～ 62 | 3~4 |
| アンニョンハセヨ KOREAレポート 12 | 5 |
| お知らせ | 6 |

世界の祝日<6月>

- 中国 1日 児童節
- 10~12日 端午節
- 香港 12日 端午節
- 韓国 6日 戦没者慰霊日
- ロシア 12日 ロシアの日

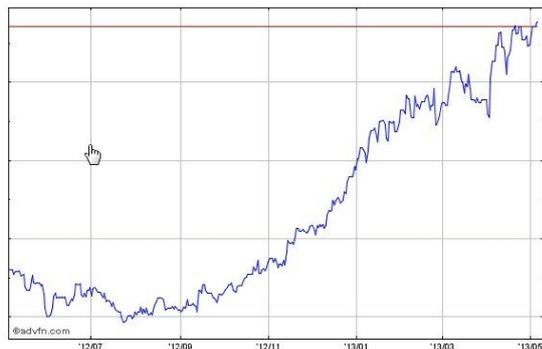
アベノミクスによる影響は、台湾にとっても無視できない状況になっている。為替レートの変化とともに、サービス、貿易関係の数値、更には台湾市場で起きている現象を見て行きたい。

本日(5/6)、また飛び抜けた。台湾ドルと日本円の為替レートである。本日のレート最安値は、3.3431。日本の一万円が、2,991台湾元と交換できる。しかし一年前は、3,846元もらえたのだ。855元も金額が減った。日本円が二割以上(23%)暴落したことになる。日本人の預金は、外人に比べ異常に円嗜好が強いと言われている。家計にある日本円の預金をほぼ日本円で預金している、ということだ。日本国内で生活し、日本で仕事をし、海外にも行くことがなければ、アベノミクス効果で日本の株価が上がり、ぬるま湯的な感じになってきたことに私も同意する。しかし海外にいる身として米国ドルから見た場合、円財産の暴落は悲惨である。以下のグラフを見てほしい。台湾元と日本円のチャートである。左側が過去一年間のグラフ。右側が五年間のチャートである。まだ五年前の状況に

は戻っていないが、過去一年間では急激な円安になっていることが分かると思う。日本の輸出企業、日本国内の観光業にとっては、冬の時代から、ホクホクの状況に変わってきている。

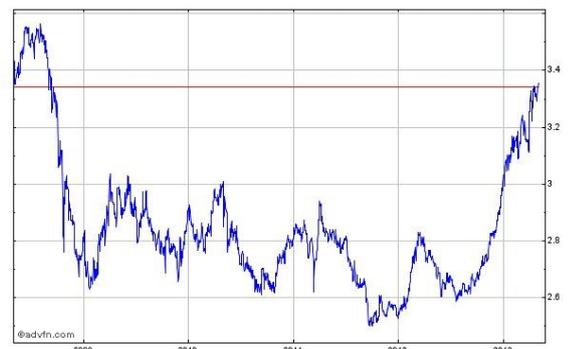
台湾元は、米ドルに対しても徐々に切り上げている。これは、台湾企業にとっては、日本に対しても、重要な米国に対しても輸出競争力の低下を招いていることになる。本日のチャートを見ると、急激な下げが見られる。台湾当局が台湾ドル売り米ドル買いの介入をしたと思われる。しかしすぐに戻ってしまった。当局の介入の効果が効かなくなってきている。台湾企業を守るため台湾当局は、ドル売り台湾ドル買いを宣言している。これほどアベノミクス効果は、外国に対しても大きな影響を及ぼしていることになる。では、台湾の経済はどうなっているだろうか。経済部が4月22日に発表した3月の輸出受注金額合計は358.4億米ドル。前年同月比6.6%の大幅減であった。日本向けは、28.5億米ドル。円安の影響で日本からの受注が昨年比で15.6%も減少した。米国向けは、84.1億米ド

台湾ドル/円 FXチャート



台湾ドル/円 一年間チャート

台湾ドル/円 FXチャート



台湾ドル/円 五年間チャート

<次頁へ続く>

ル、7.8%減少。中国大陸向けは、97.8億米ドル、1.9%減少、ヨーロッパ向けは、62.1億米ドル、9.1%の減少。台湾の輸出に打撃を与え始めているかわかるだろう。

■対日観光客の増加と日系商品の還元セール

では対日では、どのような変化が現れているであろうか。まず、旅行。台湾から日本への観光客数が3月前年比で、なんと60%もの増加である。実感として、飛行機の座席が取れない。周囲はほとんど台湾人観光客である。貿易関係に話を戻すと、台湾の中央銀行彭淮南総裁が、3月末に次の発言をした。「為替レートを見ると日本からの輸入品は、15%の値下げ余地がある。円安は5ヶ月以上も続いており台湾の輸入業者の国内在庫は既に回転しているはず。よって値下げをしない理由がない」また台湾経済部では、今年2月以降、日本からの家電、食品に対して値下げをするよう大手8社の小売業者に促している。これに伴い、日系商品に対して、次のような動きがあった。リンゴ日報新聞(3/19付)によると、自動車は、トヨタ、日産が、キャンペーンで還元。雑貨は、無印良品が検討中。化粧品の資生堂、コーセーは、値下げを検討。百貨店では、三越が、春物衣料の20%程度の値下げ、太平洋そごうが和風物産展で200種商品の6~7%の値下げ、とのことである。その後、台湾無印良品は4月25日から春夏物の衣料品や関連品を中心に計830アイテムを値下げするとアナウンスをした。最高で約3割前後も安くするとのこと。無印良品が台湾に進出して以来最大

規模の値引きである。台湾消費者向けへのアピールとともに、当局への指示に従った模様である。

他には、統一超商が4月17日から、オンラインショッピングサイトの「7net」上に日本商品専門のコーナーを開設した。急速な円安を商機とみて日本からの輸入品を積極的に投入して増収につなげる。飲料や菓子、インスタントヌードルなどを中心に360品目を提供する予定とのことである。

一方、日本航空や全日空の台湾元建て航空券は下がっていない。企業内部利益としては、相当な黒字となっているはずである。価格競争力が高いものは円安効果で20%以上の増収を期待できるものの、食品、消費財等は台湾政府や消費者の眼が届きやすく単純に利益増加が期待できないかもしれない。しかし、日本からの輸出企業にとっては以前より利益率を改善できる好機である。台北桃園空港から近い苗栗縣では、4月5日、日本商品の販売とレストラン展開をする「日本城」ショッピングモールが開幕した。ラーメン、うどん、焼肉、たい焼き、大阪お好み焼き、日本の優れた商品、美容室等、40から50の日本関係店舗を展開する予定であるらしい。ニュースを追っているのだが、日本側が「大手広告会社」としか出てこない。苗栗縣副議長も式典に出ているのだが、その町並みが微妙に不思議な鳥居とか、地蔵である(下写真)。私もぜひ行ってみたい。

2013/04/16

MUJI無印良品將於4月25日起 調整部分商品售價

因應日幣貶值，台灣無印良品自4月25日(四)起，將陸續反映日幣匯率，針對春夏新品及人氣定番品進行售價調整，總計共有超過830個品項調整，降幅最多超過3成左右。其中春夏新品包含服飾配件、生活雜貨、美容保養品等商品，其中服飾配件佔比最多，其次為生活雜貨；而在人氣定番品系列，像是受歡迎的棉麻聚酯收納籃、尼龍撥水吊掛金型收納包及瀧和洗面乳、瀧和卸妝油等人氣商品，皆將以全新、超值的價格呈現，迎接接下來的母親節送禮商機，預計帶來更多購物人潮！

此外，台灣無印良品也進一步表示，此波調降計劃將持續進行，未來投入門市的季節新品也都將以全新、超值的價格訂價，讓喜愛MUJI無印良品的民衆可以用最優惠的價格買到喜愛的商品！



台灣無印良品のHPより。円安に伴い値下げをする告知。これからの輸入品に対しても、全て円安に乗じた価格で提供することをアナウンスしている。<http://www.muji.tw>



苗栗第一個歐式風格商店街及全台第一個原汁原味的日本城，將於四月五日盛大開幕！（圖／記者許素蘭攝）

アベノミクスによる円安は、日本の輸出企業に取って慈雨であることは間違いない。展覧会等、国外に販路を求めてみても良い時期になったと思う。

【スナーク 富田 恭敏】

最新上海 ～現地レポート～ 62

中国最大級の食品見本市「SIAL China 2013」～頑張ろう、日本！～

毎年5月、上海では「SIAL China」という国際食品展示博覧会が開催されている。この展示会は、毎年11月に開催されている「FHC China」と並ぶ中国最大級の食品・飲料見本市だ。

■SIAL China 2013の概要

開催期間：2013年5月7～9日
開催場所：上海新国際博覧中心
展示面積：85000㎡
出展数：約2200社（世界90カ国）
来場社数（見込み）：約46000人（世界100カ国）
参考HP：<http://www.sialchina.com/>

■日本食品の出展状況

ジェトロのジャパンプースには日本食品企業や自治体が計8社・団体出展。そのほかには、ジェトロのジャパンプースではなく、独自でブース出展をしている企業もあった。「森永乳業」や「紀文食品」は台湾の現地法人として台湾出展エリアにブースを構えており、中国現地法人として出展し中国国内企業と軒を並べて出展している日系企業も数社見られた。

■ジェトロのジャパンプース出展までに

震災による原発事故で中国への日本食品の禁輸が依然として続いていた中、ジェトロが初めて中国の大規模な食品見本市に参加したのが、昨年「SIAL China 2012」。昨年は、展示面積260㎡で計22社・団体が出展。昨年に引き続き、今年もジェトロが出展するブースへの出展企業が公募（出展費用有料）されたが、当初、応募者が想定していたよりも集まらず、ジェトロによるブース出展はキャンセルとなったようだ。ところが、出展を強く希望する熱心な企業からの要望があり、ジェトロが主催者側と再度交渉の上、展示面積36㎡を確保し、改めて出展企業を公募（出展費用無料）したところ、多くの応募があり、展示面積に限りがあることから、最終的に8社・団体の出展が決定したようだ。今回の再応募は、開催数週間前であったことから、展示されている商品は全て既に中国で販売されている商品で、酒・飲料・調味料が多かったが、お菓子や健康食品も展示されていた。



独自でブースを出展した森永乳業と紀文食品



ジャパンプースの様子

〈次頁へ続く〉

■海外出展ブースの様子、「頑張ろう、日本！」

正直な感想として、欧米や韓国、台湾などのアジア勢の出展ブース規模を見ると、「頑張ろう、日本！」と思わずにいられなかった。震災による原発事故や昨年からの日中関係、また大気汚染や鳥インフルによる中国に対する悪印象などで日本企業の中国大陸に対する意気込みが減速しているのかもしれない。それとは対照的に、毎度のことながら韓国や台湾の大規模なブース出展を見ながら、これまで以上の韓国や台湾の中国市場に対する売り込み姿勢のアップレッシュさを感じた。

さて、展示ブースは、基本的に国・エリア別に配置されているのだが、ワインやチョコレートなどの重点商品については、「ワインワールド」、「チョコレートワールド」とテーマ別に展示されていた。

■あとがき

PM2.5で話題となっている大気汚染の問題が騒がれていた中、先日、上海を南北に流れる黄浦江という河川で1万頭以上もの病死豚の違法廃棄が発見されたニュースが記憶に新しい方も多いと思う。そして、つい先日も驚愕のニュースが報道された。ネズミやキツネに加工を施し、牛肉や羊肉として偽造販売していた事件でこの食肉偽装について約900人もの関係者が逮捕されたのだ。この食肉偽造事件を受けて、政府検査部門は飲食店への立ち入り検査も強化しているようだ。この展示

会では、精肉や肉類加工品の出展も多く、特にオーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチンなどが「安心・安全」を掲げ大規模に出展しており、とりわけ多くのバイヤーを集めていたのだ。事件の影響も少なからずあるのではと思いつつ視察していた。

2008年に食品安全法という世界的にも非常に厳しい基準を満たした法令が施行された中国ではあるが、実際の食品製造販売の現場においては、上述のようなとんでもない食品偽造事件が後を絶たない。そのため、中国の消費者は往々にして、中国国内商品よりも輸入食品或いは海外ブランドの中国国内生産商品への信頼や人気が高い。無論、輸入商品であれば何でも人気があるわけではないが、一方で価格が高くと安全で高品質な食品へのニーズは高く市場も大きい。

さて、昨年比日本企業の企業や自治体から弊社への中国進出に関する問い合わせは増えている。問い合わせの内容は、現地法人設立から販路開拓など様々であるが、日中関係が悪化しようともチャイナリスクなどと取り上げられようとも、中国ビジネスを拡大しようとする企業は確実にいる。SIAL Chinaも当初、ジェトロのジャパンブースに出展する企業が集まらず、出展キャンセルとなりかけたが、ある企業の強い要望により出展が実現し、8社・団体が出展する結果となった。弊社もこれから一層、この企業のような逆境をチャンスと捉える意欲的な企業を支援していきたいと再確認させられた展示会視察であった。



各国ブースの様子

韓国内の日本飲食店の人気が段々高くなり、日本外食フランチャイズの韓国進出が本格化している。韓国政府が中小企業を保護するため大手企業の外食企業を規制して、規制対象に含まれなかった外資系外食企業が反射利益を得ると予想される。そこで、韓国内の日本外食企業の規模及び今後施行が予想される外食企業規制案の詳細内容及びその示唆点を調べる。

■日系フランチャイズの韓国への本格進出

韓国で日本飲食店の人気が続いている。日韓外食企業が合弁で大々的に和食レストランを開業したり、日本外食ブランドの韓国進出も著しく増加している。韓国の代表的なフランチャイズ外食企業であるGENESIS BBQは5月2日、日本の外食企業ワタミと合弁で江南(ガンナム)駅の周辺に和食カジュアルレストランのワタミ1号店を開店した。これに先立って、韓国のドンウォン水産は日本企業のプレナスと共にほっともっと弁当の売場をソウルの狎鷗亭(アックジョン)に開店し、韓国食品企業のノンシムはCOCO壺番屋と共にカレー専門店17カ所を運営している。

居酒屋等を除いて韓国市場に進出した日系外食ブランドは約20と推定されている。このうち2つ以外は全て2010年以後に韓国市場に進出し、中でもモスバーガーや丸亀製麺等は昨年初めに韓国に売場を開店したほど、ここ最近日本外食企業の韓国進出は急速に増加している。

■過去の失敗事例も教訓としなければならない

日本外食ブランドの韓国進出は1988年日本コーヒー専門店のドトルコーヒーが最初であった。同社は1996年まで営業したが、韓国市場で失敗し、撤退した後、韓国のコーヒーブームと共に2011年韓国市場に再参入した。

このように初期の日本外食業界は高い価格と差別性のない現地化で失敗した。しかし、最近参入する外食企業は生半可に韓国人の好みに合わせる

| ブランド | 韓国進出 | 主なメニュー | 売場数 |
|---------|-------|--------|-------|
| スシロー | 2011年 | 105円寿司 | 5カ所 |
| がってん寿司 | 2010年 | 寿司 | 3カ所 |
| 満天星 | 2010年 | 和風洋食 | 2カ所 |
| かつら | 2000年 | 日本家庭職 | 約40カ所 |
| さぼてん | 2001年 | トンカツ | 約70カ所 |
| coco壺番屋 | 2008年 | カレー | 17カ所 |
| モスバーガー | 2012年 | 手製バーガー | 3カ所 |
| ほっともっと | 2012年 | 弁当 | 2カ所 |
| こえもん | 2012年 | スパゲティー | 2カ所 |

日本外食企業の現況(3月末基準)及びワタミ開業セレモニー
(資料=エコノミ朝鮮)

よりは日本現地の味をそのまま維持し、インテリアも日本の雰囲気を最大限演出しており、異色の雰囲気を求める韓国の若者から良い反応を受けている。

このような雰囲気の中で、韓国大手企業系列の外食企業が領域を拡張し零細飲食店の経営が難しくなり、大手・中小企業間の相生を目的として設立された同伴成長委員会が直接動き始めた。中小企業の適合業種選定権限等を持っている委員会が大手企業系列外食企業の拡張を制限した。しかし、この規制案がかえって外資系外食企業には好材料として作用すると業界は予想している。

■大手企業系列の外食企業規制が外資系外食企業には好材料

現在まで同伴成長委員会が提案した仲裁案によると、規制は大きく相互出資制限企業、中堅企業、外食フランチャイズ等の3つの類型に分けて施行される。外食企業が属している類型により駅周辺と多重複合施設に進出できるかどうかの可否が決定される。

相互出資制限企業に該当する場合、明洞(ミョンドン)や江南駅、弘益(ホンイク)大学駅等極めて制限されたところのみ出店でき、多重複合施設も2万㎡以上の建物のみ新規店が進出できる。

もちろん、外国企業であっても同伴成長委員会の規制対象から排除されるわけではない。但し、基準になる企業規模が本国基準ではなく韓国内の規模であるため、相対的に規制から自由になる。韓国企業との合弁時に合弁企業の規模により規制対象となる反面、同時に独立的に進出する時には売上高規模200億ウォンと常時勤労者数200名(現行の中小企業基本法上のサービス業種の中小企業基準)を超えるまで自由に企業の拡張ができる恩恵を受けられる。これにより国内の外食企業に対する逆差別論議まで起こして、同伴成長委員会が規制最終案の確定に悩んでいる程である。しかし、外国企業がWTO規定、FTA等を根拠として、国際訴訟をする可能性も排除できないため、5月末まで決定が留保された最終案に大きい変化はないと関連業界の専門家は予測している。



【安進会計法人 キム・ミョンギョ】

台湾ビジネスセミナーのご案内

JETRO鳥取と公益財団法人交流協会では、これから台湾とのビジネスを始めようとする県内企業を対象に、台湾ビジネスセミナーを開催します。今後の皆様の台湾ビジネス戦略の立案のため、是非ご参加ください。

日時：2013年5月17日(金)10時～12時

場所：米子商工会議所 7階 会議室

内容：

①「台湾と日本の産業連携架け橋プロジェクトについて」

台北駐日経済文化代表処副代表
余吉政氏

②「氷温技術の台湾導入への取り組み」

公益社団法人氷温協会 国際部長
三島睦夫氏

後援：米子商工会議所

参加費：無料

定員：30名(先着順)

申込締切：2013年5月10日(金)

申込・お問い合わせ：

JETRO鳥取(担当：田口)

TEL：0857-52-4335

FAX：0857-52-4336

タイ進出ビジネスセミナーのご案内

JETRO鳥取では、バンコクに駐在し日々日本企業からのご相談に対応しているJETRO海外投資アドバイザーを講師として招き、タイ経済の全般情報、投資環境、商習慣などの最新情勢を紹介したセミナーを開催します。これから進出を考えている企業にとってはもちろん、すでに進出されている企業にとっても現地での最新情勢を聞ける貴重な機会です。ぜひこの機会にご参加ください。

※日時・内容等詳細については決定次第別途お知らせします。

※5月29日(水)には松江でも同内容のセミナーが開催されます。

日時(予定)：2013年5月30日(木)

13時30分～15時

会場(予定)：鳥取商工会議所

講師：矢島洋一

(JETROバンコク海外投資アドバイザー)

参加費：無料

定員：各30名

申込締切：2013年5月24日(金)

申込・お問い合わせ：

JETRO鳥取(担当：田口)

TEL：0857-52-4335

2013鳥取ブランド展inロシア 出展者募集のご案内

環日本海定期貨客船の境港就航に伴い、より身近になったロシアで、鳥取県産品・文化・観光のPRを行い、ロシア市場に関心のある事業者の皆様の販路開拓を支援するため、「鳥取ブランド展inロシア」を今年も開催します。ロシアへの輸出促進・販路拡大にご関心のある方はぜひ出展をご検討ください。

なお、ブランド展開催に先立ち、ロシア側バイヤーとの事前商談会を実施します。ブランド展参加をご検討の方は、先ずはこちらの商談会にご参加ください。

■とっとりブランド展事前商談会

日時：平成25年6月5日(水)10時から

場所：米子コンベンションセンター

第4会議室

申込期限：平成25年5月24日(金)

主催：(公財)鳥取県産業振興機構

とっとり国際ビジネスセンター、

鳥取県ロシアビジネスサポートセンター

申込・お問い合わせ：

とっとり国際ビジネスセンター

(担当：美甘(みかも)、石田)

TEL：0859-30-3161

FAX：0859-30-3162

編集後記

中国全土で鳥インフルエンザの感染が拡大する中、上海へ行った。4日間の滞在日程に対し、マスクを10枚持参。上海浦東空港到着後、市内へ移動しホテルにチェックインしたが、その間、マスクを付けた人は一人も見かけなかった。

現地在住の日本人に聞くと、鳥インフルエンザよりもPM2.5による大気汚染の方が問題視されているとのこと。確かに街中が白く霞み、遠くの建物はほとんど見えない。PM2.5の数値が高くなる朝夕の通勤ラッシュ時はマスクを付ける人をチラホラ見かけた。空気清浄器の需要が急激に伸びているというのも納得。しかし、鳥インフルエンザも気にかかる。食事の際は鶏肉料理を注文するのを躊躇し、鶏が元氣よく歩き回っている光景を見かけるとドキッとした。

結局、滞在中にマスクは数枚しか使わなかったため、残りを現地在住の日本人に差し上げたところ、現地では入手困難な日本製のマスクは大変喜ばれた。一刻も早く事態が終息に向かうことを願う。

公益財団法人 鳥取県産業振興機構 とっとり国際ビジネスセンター

住所 境港市竹内団地255-3

Tel 0859-30-3161

Fax 0859-30-3162

Email kaigai@toriton.or.jp

URL <http://www.tottori-kaigai.com/>

本誌「とっとり・グローバルウォッチ」は、皆様から内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしておりますのでお気軽にお寄せください。